

# 2人の証人



2024年5月11日 第6課







偉大な改革者たちの死後、改革は停滞した。改革派の教会は冷たく、硬直し、不寛容になった。

政治と哲学の世界では大きな変化が起きていた。不安定な情勢が広まったことで、ピルグリムたちのように故郷を逃れ、「自由の国」北米に助けを求める者も出てきた。

ヨーロッパでは、革命という形で危機が勃発した。フランスは近代ヨーロッパで最初の無神論国家となった。

その瞬間まで、神は“2人の証人”を守ってこられた。歴史上の重要な瞬間に、彼らに何が起こったのか？



**2人の証人とは誰ですか？**



**証言の時間はどのくらい？**



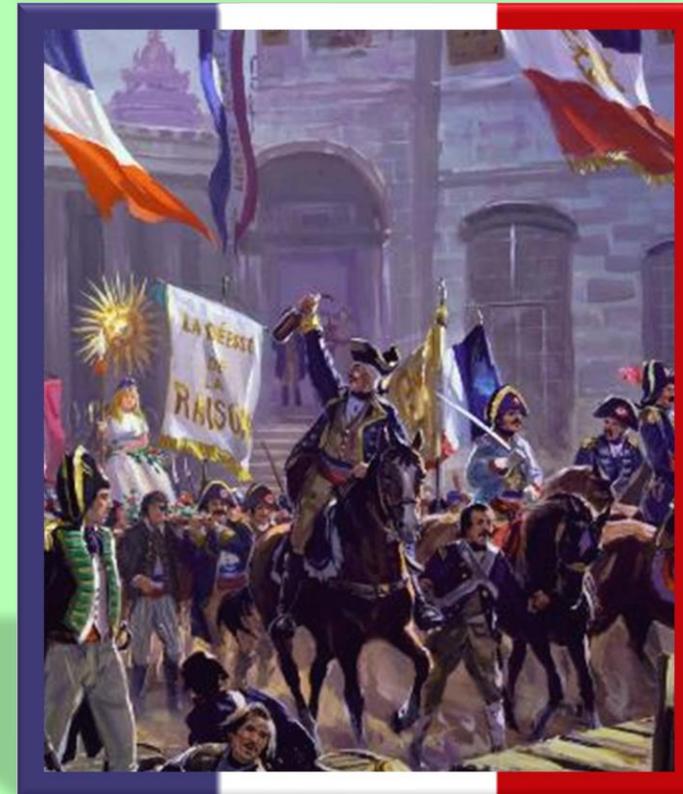
**彼らはどのように死んだのか？**



**彼らはいつ復活し、天に昇ったのか？**



**それからどうなったのか？**

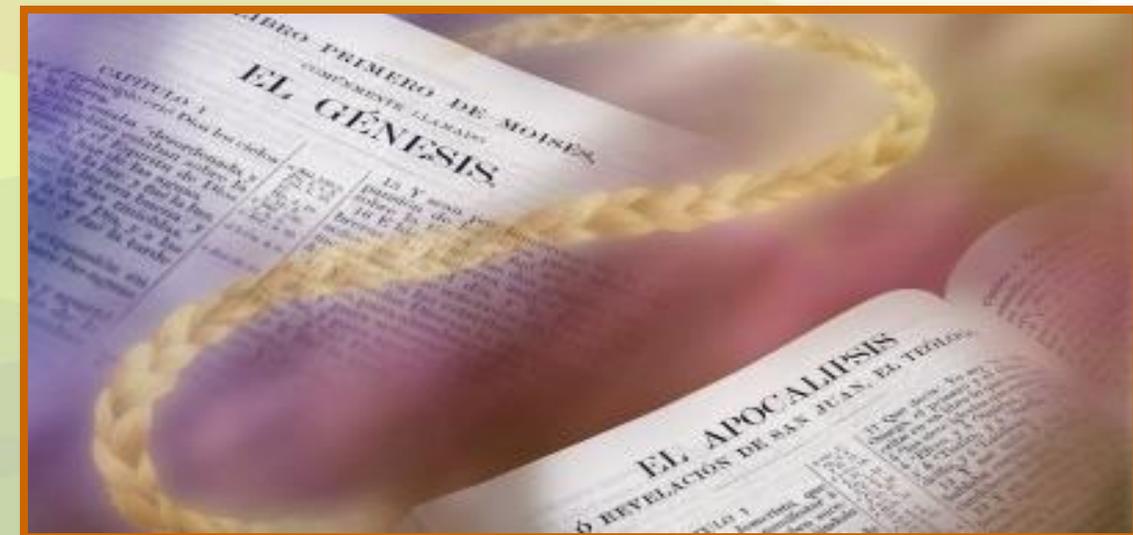


# 2人の証人とは誰ですか？

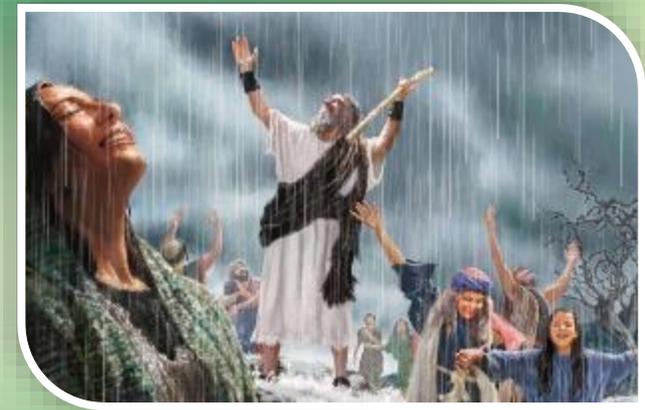
この二人の証人とは、地上の主の御前に立つ二本のオリーブの木、また二つの燭台である。  
(黙示録 11:4)

二本のオリーブの木と二つの燭台（黙11:4）の言及は、私たちがゼカリヤ書4章の幻へと導く。その中で、オリーブの木は、七つの枝を持つ灯台（ゼカ4:1-3, 12）を養う油を生み出す。

オリーブの木は「油を注がれた二本のもの」であり、灯台とともに「主の言葉」（ゼカ4:6, 14）を表している。つまり、旧約聖書と新約聖書である。



# 2人の証人とは誰ですか？



モーセとエリヤを象徴として、黙示録11章はこの二人の証人についてこう述べている：

彼らは粗布の服を着ている (3節)

彼らは神の前に立つ (4節)

誰かが彼らに危害を加えようとするば、彼らから火が出る (5節)

雨の降らないように空を閉じる (6節上句)

水を血に変え、災いを引き起こす (6節下句)

聖書は困難な時代にも守られた

神は御言葉が消えることを許されなかった

聖書の言葉は敵を「焼き尽くす」 (エレ 5:14)

聖書を拒絶する者は、聖霊の雨 (油) を奪われる。

聖書を学んだ者だけが、中世の災いと霊的な暗闇から救われた。

モーセやエリヤのように、聖書は大きな迫害を受け、無神論者の政府と戦い、燃えるような情熱を燃やすだろう…。歴史はこの預言の正確さを裏付けている。

(日)

あなたは、旧約聖書をキリストを証しする  
書物として読んでいますか？

例えばレビ記に多岐にわたり記されている、  
清いまたは汚れているものの区別については、  
どのようにキリストを証ししている  
のでしょうか？

# 証言の時間はどのくらい？

わたしは、自分の二人の証人に粗布をまとわせ、千二百六十日の間、預言させよう。(黙示録 11:3)

黙示録11章は、天の聖所と、香の祭壇の前で礼拝する人々の幻から始まる(黙11:1)。

天の聖所の宮廷とは地上のことであり、そこでは「異邦人」、つまり不信仰な者たちが42ヶ月の間、「聖なる都」、つまり神の民を踏みにじる(2節)。

その時、神の言葉は「粗布」、すなわち大きな苦難を着ることになる(3節) [42ヶ月×30日=1,260日(預言では1,260年)]。

538年以降、ローマ教会は次第に神の言葉よりも自分たちの伝統を押し付けるようになり、聖書を読むことを禁止し、聖書を持っている者、聖書を読んでいる者、聖書の信仰(教義)に従って生きている者を死刑に処するまでに至った。

この時代の終わり近くに、改革者たちがこの迫害を一時的に緩和した。(マタ24:22)



(月)

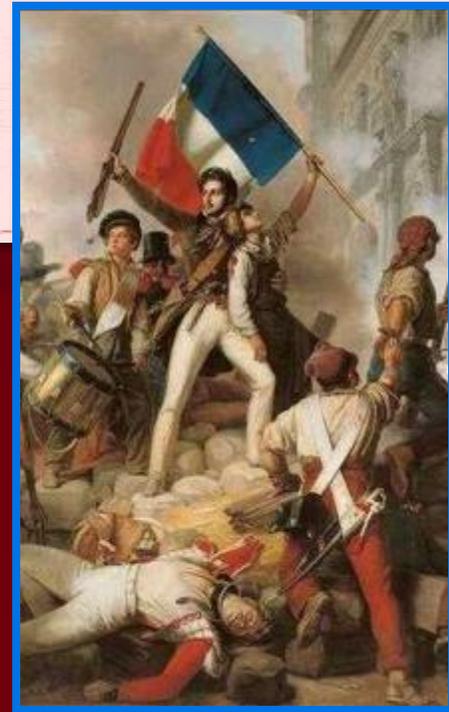
あなたの日々のクリスチャンとしての  
歩みにおいて、

聖書や信仰以外に起因する要素は  
ないでしょうか？

聖書を生活のすべての規範とすることは、  
実際に可能なことなのでしょうか？

# 彼らはどのように死んだのか？

二人がその証しを終えると、一匹の獣が、底なしの淵から上って来て彼らと戦って勝ち、二人を殺してしまう。(黙示録 11:7)



黙示録11:7で言及されている奈落は、悪霊が住む場所を描写している (黙9:11; 20:1-3; ルカ8:30-31)。獣は、(黙示録やダニエルの他の獣と同様に) 政治的または宗教的な権力を表している。

1260年の終わり、つまり1798年ごろ、どのような勢力が誕生したのだろうか？

1789年に始まったフランス革命は、いわゆる "恐怖政治" (1793-1794年) を引き起こした：サタンとその悪魔である。この政府は3つの方法で呼ばれている (黙11:8)：



**ソドム**：革命は大きな不道德の時代に入った。



**エジプト**：無神論者の政府 (出5:2)、彼らは "理性の女神" を崇拝することに抵抗はなかったが



**主が十字架につけられたように**：  
イエスの犠牲は拒絶される

この時期、宗教は廃止され、聖書は禁止され、燃やされた。

(火)

現代において、聖書を最も攻撃し、  
その影響力を殲滅（せんめつ）させるために、  
サタン悪魔は何を用いていると  
思いますか？

革命と恐怖政治の時代にフランスを支配した無神論的権力は、これまで世界になかったほどの戦いを、神と聖書に対していどんだ。神の礼拝が、国会によって廃止された。聖書は集められて、あらゆる軽べつを浴びせられながら、公衆の前で焼かれた。神の律法はふみにじられた。聖書的な諸制度は廃止された。毎週の休日は廃止され、その代わりに、10日目が歓楽と冒瀆の日に定められた。バプテスマと聖餐式は禁止された。そして墓地には、死は永遠の眠りであると宣言する掲示が、目立つように立てられた。

# 彼らはいっつ復活し天に昇ったのか？

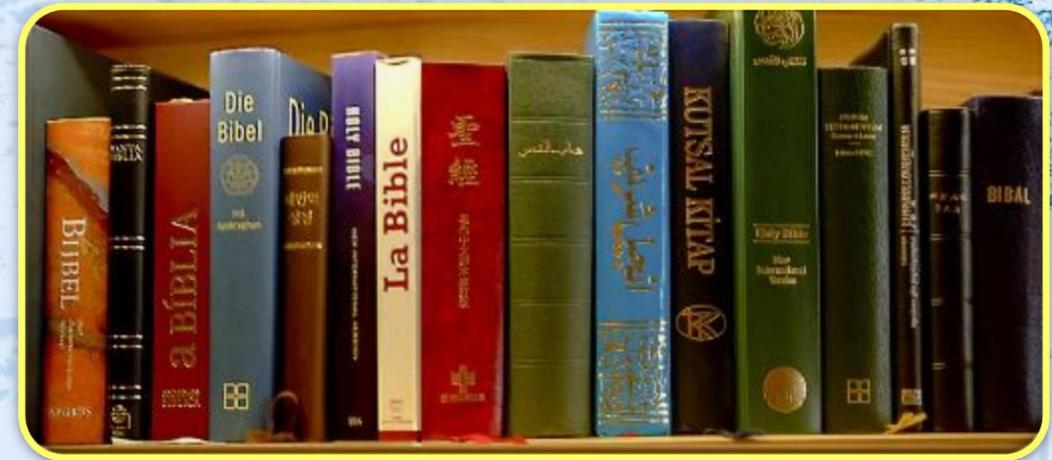
三日半たって、命の息が神から出て、この二人に入った。彼らが立ち上がると、これを見た人々は大いに恐れた。(黙示録 11:11)



1793年11月26日、パリは宗教廃止令を出した。この勅令は1797年6月17日に取り消された。この3年半の間、フランスは宗教の圧制から「解放」され、聖書の声を黙らせたことを喜び、喜んでいた(黙11:9-10)。

聖書は沈黙させられたり、破壊されたりする代わりに、以前よりも強く立ち上がった。プロテスタント宣教は、地の果てまで福音のメッセージを伝えた(黙11:11)。

ウィリアム・ウィルバーフォースは1804年、聖書を大量に配布するために最初の聖書協会を設立した。現存する聖書は何千部も増え、世界で最初のベストセラーとなった。現在、神の御言葉の頒布はとどまるところを知らない。それは神によって、誰にも破壊できない状況に置かれている(黙11:12)。



(水)

神の言葉の権威を傷つけ、疑問視する  
自称クリスチャンとして生きることを、

どうしたら避けれるでしょうか？

自分が自称クリスチャンになっていると

感じたことはありますか？

# それからどうなったのか？

そして、天にある神の神殿が開かれて、その神殿の中にある契約の箱が見え、稲妻、さまざまな音、雷、地震が起こり、大粒の雹が降った。(黙示録 11:19)

二人の証人の "復活" から、宇宙規模の争いの最終章が始まる。

この期間には、イエスの再臨というクライマックスがあり、すべての王国はイエスの所有となり、イエスは永遠に支配される (黙11:15)。

また、諸国民は怒るが、神も怒られる。正しいものに報いが与えられ、悪人「地を滅ぼす者」には滅亡という報いが与えられる (黙11:18)。

これらはすべて、天における礼拝 (黙11:16-17) という文脈の中で組み立てられており、天の聖所における契約の箱の幻 (黙11:19) で頂点に達する。

「裁きの時」が到来した。(黙 11:18) 審判の基準が世に示される：それは契約の箱の中の十戒である。



(木)

現在のあなたの状況のなかで、  
聖書の真理から離れさせようとする  
最も大きなチャレンジは何ですか？

あなたはそのチャレンジと、  
どのように相対しているのでしょうか？

「聖霊は、神の言葉を探求するすべての真の探求者のそばにおられ、隠された真理の宝石を発見することを可能にしてください。神の光が彼の心を照らし、真理に新しい新鮮な重要性を刻印する。彼はかつて感じたことのない喜びに満たされる。神の平安が彼の上にある。真理の尊さがかつてないほど実感される。天の光がみことばを照らし、すべての文字が金色に輝いているかのように見える。神ご自身が心に語りかけ、御言葉を霊と命とされる。」

